

特集 01 SPECIAL FEATURE

鹿児島県警察の離島勤務の魅力

鹿児島には28の有人離島があり、そこでも多くの警察職員が暮らし、働いています。最初は慣れない生活に不安を感じるかもしれませんが、島ならではの魅力や出会いが、きっとあなたの宝物になるはずです。新しい自分に気づき、成長を実感できる——。そんなありのままの離島勤務について話を聞きました。



インタビュー



種子島警察署 地域課 令和16年採用 巡查

Q1. 離島での生活や勤務はいかがですか。

種子島警察署に赴任して、1年半が経ちました。警察官として最初の勤務が離島ということで、最初は不安もありましたが、今ではすっかり慣れて、この島での暮らしを楽しんでいます。種子島はお店も充実している、思っていたよりずっと暮らしやすいです。なにより、島長の皆さんが本当に温かくて、若手の自分を快く迎え入れてくれたことが嬉しかったです。高輪の方も多いため、巡回連絡のときにはこちらを氣遣ってくれたり、丁寧に対応してくださったり。目上の方と話すことに苦手意識があったのですが、

島の安心、島の警察

自然と克服できたように思います。また、勤務については、落ち着いて丁寧に取り組める環境だと感じています。種子島ならではの任務として、ロケット打ち上げ時の警戒などもあります。夜間の打ち上げでは、空が一気に明るくなって、人生で初めてのような感動を覚えました。地域行事にも参加する機会も多く、地域に信頼されているという実感を持ちながら仕事ができています。まだまだ未熟な部分もありますが、更に経験を積んで、頼られる存在になれるよう頑張っています。

ISLAND DUTY

新しい自分とこの島で出会う——離島勤務



特集 02 SPECIAL FEATURE

国際社会に向けてキャリアアップ

鹿児島県警では、県民との円滑なコミュニケーションや観光地での外国人対応、多文化共生の現場を見据え、語学力や異文化理解の向上を積極的に支援しています。地域に根ざした経験や海外派遣など、広い世界で活躍する警察官の育成にも取り組んでいます。鹿児島から、世界へ。あなたの一歩が、未来をひらきます。

国際社会・多文化共生に対応するための、鹿児島県警の主な取り組み

- 語学研修の実施(英語・韓国語等)**
外国籍の県民との円滑なコミュニケーションや観光地対応を視野に、語学力の向上を支援。
- 外国人観光客とのコミュニケーション強化**
観光地などでの外国人対応のための現場研修やマニュアル整備。
- 国際情勢に関する勉強会や講義の実施**
テロ・サイバー犯罪・国際的な人身取引など、越境型犯罪への基礎理解を深める機会を提供。
- 海外派遣(JICA協力など)への推薦制度**
県民との円滑なコミュニケーションや観光地対応を視野に、語学力の向上を支援。
- 全国・警察庁の国際キャリアへのステップ**
県警での実績をもとに、将来的には警察庁付の海外赴任(大使館勤務など)も視野に。

世界に誇る日本の治安を守るために



できました。
また日本では、労働人口の減少に伴い、今後ますます外国人労働者に頼らざるを得ない状況が進んでいくと思えます。そのことに伴い、警察官は、様々な国籍や宗教等を背景とした事業の取扱いに関わっていき、必要があり、そのためには日本の常識にとらわれず、他国の文化も尊重し、相互理解を求めめる視点が不可欠です。
そういう意味では、他国の国民性や宗教、考え方の違いを肌で感じたり、日本の警察組織の存在意義を確認できたことは得がたい経験だったと思います。警察には、語学を含め専門性を高める教養施設が整っているほか、私のような機会を得られる制度もあります。
若い人にはこうした環境を積極的に活用し、様々なことに挑戦してもらいたいですし、世界に誇れるべき日本の治安維持の担い手として是非、警察官を目指していただきたいと思っています。

私は鹿児島県警から外務省に出身し、東海アジアの総領事館で3年間勤務しました。主な業務は、邦人保護のための治安情報収集やテロ対策、施設警備の企画立案等で、現地報道等を把握するとともに、現地の治安当局等と連携しながら業務に当たっていました。
海外勤務を通じ、日本の治安や風土、国民性の素晴らしさをあらためて実感するとともに、治安の一翼を担っている者としては、あらためてこの国を守っていかねばならないと気持ち新たにすることが

INTERNATIONAL CAREER

鹿児島だけ、日本だけじゃない。活躍の場は海の向こうでも。

インタビュー



警務部 総務課 警視 公安委員会補佐室長 兼取調監督室長



海外ならではの体験も...